

信州下伊那郡大鹿村の植物名方言

倉 田 悟

S. Kurata : Local names of plants in Ohshika-mura, Nagano prefecture

大鹿村へは二度行ったことがある。昭和30年8月には、日本シダの会の行方沼東氏を先頭に、行方氏が発見されたトヨグチウラボシの自生地を訪ね詳細に研究せんものと、豊口山に登ったのだが、この時は鹿塩の湯から案内の方が来られ、僅かながら植物方言を手帖に書き留めた。

昭和43年10月には長野営林局の千村速男氏の格別の計らいで、今度は青木川の深ヶ沢の事業所に泊って、地獄谷方面の植物を調査するとともに、深ヶ沢の湯沢武夫氏からたくさんの植物方言を教えてもらうことができた。

湯沢さんは60歳位だったろうか。とにかく、これだけ、大鹿村の植物民俗を伝承されている人は、他に求め得ないだろう。本報は主にこの湯沢さんからの聞き書きを記録したもののだが、菌茸類などについては私が不得手なので、ほとんど記録しなかった。もちろん湯沢さん自身はたくさんのキノコをご存知なのである。

「これもクモノスダだね」と、シオジ林の林床に生えるフジシダを指差した湯沢さんの笑顔が忘れられない。葉身の先が地に付いて仔苗となるクモノスダを先刻見たばかりだったのである。湯沢さんの植物を見る眼は確かなものだ。

『下伊那の植物 中巻』(1973年)に既に記録されている方言名と共通なものは多いが、方言の地理分布を知る意味から、私の聞き書きしたものはすべて採録した。同じ意味合いから、これ亦、前後二回踏み込んだことのある南隣りの遠山川流域の植物方言も随所に引用した。

本報をまとめるに当たり、千村速男、湯沢武夫の両氏と駒ヶ根営林署の関係各位に深く謝意を表したい。

以下、方言名を50音順に掲げ、括弧内に標準名と、所属科名などを記した。

* * * *

(1) アオダコ (アオダモ類, モクセイ科)

フジキより木が大きくなるというが、フジキもアオダモ類を指す。

(2) アカキノコ (マスタケ, 菌類)

ムセツタともいう。「モチ」と「ウルウ」がある。

(3) アカザ (クサコアカソ, イラクサ科)

オロまたはセッケングサともいう。また、アカザはナスのささえ木に利用するという方はアカザ科のアカ

ザの茎かも知れない。

(4) アカシデ (アカシデ, カバノキ科)

(5) アサガラ (アサノハカエデ, カエデ科)

(6) アツカワアケビ (ミツバアケビ, アケビ科)

食べる部分が多い。遠山川ではゴトウアケビという。

(7) アワフキ (アワフキ, アワフキ科)

アワフキのおき火は消えない。

(8) イタンドリ (イタドリ, タデ科)

(9) イチイ (イチイ, イチイ科)

(10) イトマユミ (ツリバナ, ニシキギ科)

サワダツもイトマユミの類であるという。

(11) イトヤナギ (イヌコリヤナギ, ヤナギ科)

(12) イボタ (イボタノキ類, モクセイ科)

高遠地方の方言名。

(13) イヌサンショウ (イヌザンショウ, ミカン科)

古名のホソギが伊那谷には残存しているが、大鹿村では耳にしなかった。

(14) イワヤマツツジ (ミツバツツジ類, ツツジ科)

高遠地方の方言名。

(15) ウコギ (ヒメウコギ?, ウコギ科)

人家に栽植され、枝に葉がたくさん着くという。実物は確認しなかった。

(16) ウスカワアケビ (アケビ, アケビ科)

アツカワアケビより甘い。

(17) ウダイカンバ (ウダイカンバ, カバノキ科)

皮を焚き付けにする。遠山川ではウダイカバの皮を燈しにしたという。

(18) ウツギ (ウツギ, ユキノシタ科)

骨をはさむ箸は竹とウツギを対にする。

(19) ウメモドキ (ツルウメモドキ類, ニシキギ科)

(20) ウラジロズミ (ウラジロノキ, ナン科)

(21) ウラジロモミ (ウラジロモミ, マツ科)

(22) ウリッパ (ギボウシ類, ユリ科)

(23) ウリノキ (ウリハダカエデ・ホソエカエデ・メウリノキ, カエデ科)

ウリンボーとも呼ばれる。

(24) エンジュ (イヌエンジュ, マメ科)

- (25) オースゲ (カンスゲ, カヤツリグサ科)
心 (中肋) を取り去って利用する。
- (26) オーナラ (ミズナラ?, ブナ科)
ミズナラより材の質が良いという。
- (27) オーニガツキ (ユクノキ, マメ科)
材は柄物に良い。
- (28) オーバカエデ (イタヤカエデ類, カエデ科)
『下伊那の植物 中巻』に採録された方言名イタヤは、下伊那地方本来のものではなからう。
- (29) オーレン (セリバオオレン, キンボウゲ科)
- (30) オカドロ (ヤマナラシ, ヤナギ科)
群生することがあるという。
- (31) オトコウツギ (ニシキウツギ, スイカズラ科)
子供が花の蜜を吸う。
- (32) オトコジシヤ (アブラチャン?, クスノキ科)
エゴノキかも知れない。アブラチャンもエゴノキも眼にしなかったので再調査を要する。
- (33) オトコマヨメ (カントウマユミ, ニシキギ科)
- (34) オトコユーゾメ (ムシカリ, スイカズラ科)
- (35) オニグルミ (オニグルミ, クルミ科)
小正月にはクルミとヌルデの材を二つ割りにし、家内安全・十二月と書いて、各々を家の門の左右に立てる。
- (36) オパスゲ (オクノカンスゲ, カヤツリグサ科)
蓑の材料としては良くない。
- (37) オバユリ (ウバユリ, ユリ科)
茎の立ったものは根が食用には駄目である。
- (38) オロ (クサコアカソ, イラクサ科)
遠州の水窪地方でもオロという。
- (39) オンナノテ (ボタンズル, キンボウゲ科)
- (40) オンパコ (オオパコ, オオパコ科)
- (41) カキ (カキノキ, カキノキ科)
カキの薪の泡は唇の荒れに着ける。
- (42) カシグルミ (ツノハシバミ, カバノキ科)
実を食べる。実の皮がはしかい。
- (43) カシヨーズミ (ネジキ, ツツジ科)
斧柄 (よきがら), 鋸柄 (くわがら) にはカシヨーズミ, ヤマズミなどのあて材を賞用する。あてはしとなりが良くて硬い。
- (44) カシワバ (カシワ, ブナ科)
柏餅を包む。
- (45) カゾ (コウゾ, クワ科)
- (46) カチ (ヌルデ, ウルシ科)
カチノキともいい、小正月にオニギ (御祝木) を作る。材を蜜柑割りにし、その各々を二つ割りにして

十二月と書き、これを納屋, 水神, かまど, 便所, 堆肥場などに立てる。

- (47) カツラ (カツラ, カツラ科)
鹿塩ではヒロハカツラをクロバカズラと教えられた。
- (48) カナギ (広葉樹の總称)
- (49) カナクレ (ヤマボウシ, ミズキ科)
『下伊那の植物 中巻』にはクマヤナギの方言名として、カネツクレが採録されている。
- (50) カナズル (クマヤナギ, クロウメモドキ科)
わかん (輪樑) を作る。シラクチでしばり, 爪はケヤキを使う。高遠ではクマエビという。
- (51) カニグサ (イワオモダカ, シダ類)
子供にカニ (吹出物) ができると、之を煎じて、ガーゼでつけければ、よく効く。
- (52) カヤ (ススキ, イネ科; カヤ, イチイ科)
- (53) カワグルミ (サワグルミ, クルミ科)
- (54) カワドロ (オオバヤナギ, ヤナギ科)
- (55) カワラグミ (アキグミ, グミノキ科)
- (56) カワラゴボー (フジアザミ, キク科)
根を食べる。
- (57) カンナベ (イケマ, ガガイモ科)
実の殻に水をいれ、湯がわかせる。
- (58) ガンビ (チョウセンナニワズ, ジンチヨウゲ科)
- (59) ガンボジ (コウゾリナ, キク科)
兎の餌にする。
- (60) キクナ (マツムシソウ, マツムシソウ科)
新芽を食べる。
- (61) キツネノカンザシ (クジャクシダ, シダ類)
- (62) キノシタ (モミジガサ, キク科)
キノシタミツバまたはキノシタトウキチともいって食べる。
- (63) キヒモ (スギラン, シダ類)
- (64) キワダ (キハダ, ミカン科)
- (65) クサエビ (サンカクズル, ブドウ科)
- (66) クサギ (クサギ, クマツヅラ科)
クサギの虫は子供のむしぐすり。
- (67) グソバ (クズ, マメ科)
- (68) クソモミ (モミ類, マツ科)
ホンモミとウラジロモミの中間的なもの。ミツミネモミ, イイダモミなどに該当するのだろう。
- (69) クヌギ (クヌギ, ブナ科)
- (70) クマイチゴ (クマイチゴ, バラ科)
- (71) クマベラ (ツキヨタケ, 菌類)
- (72) クリ (クリ, ブナ科)
- (73) クロキ (針葉樹の總称)

- (74) クロシデ (クマシデ・サワシバ, カバノキ科)
- (75) クロベ (クロベ, ヒノキ科)
- (76) クロバナ (イヌバナ, バナ科)
- (77) クロマツ (ハリモミ, マツ科)
- (78) クロモンジ (クロモジ, クスノキ科)
- (79) ケヤキ (ケヤキ, ニレ科)
ツキより葉が大きいという。
- (80) ゲンノシヨウコ (ゲンノシヨウコ, フウロソウ科)
- (81) ケンボナシ (ケンボナシ, クロウメモドキ科)
- (82) コガキ (マメガキ, カキノキ科)
- (83) コザワハンノキ (タニガワハンノキ?, カバノキ科)
- (84) ゴトズル (ゴトズル, ユキノシタ科)
- (85) コナシ (コリンゴ, ナン科)
- (86) コナラ (コナラ, バナ科)
炭材として良い。いろいろの柴を本田へ肥料として入れたが、コナラは軸(枝)が細いから適している。
- (87) ゴハ (ヤグルマソウ, ユキノシタ科)
ヤマタバコともいう。
- (88) ゴミシ (チョウセンゴミシ, モクレン科)
シヨウガエビの1種である。
- (89) ゴヨウ (チョウセンゴヨウ, マツ科)
- (90) ササ (ミヤコザサ, タケ科)
塩川流域の方にある。
- (91) ササイチゴ (モミジイチゴ, バラ科)
遠山川でも同一方言名。
- (92) サツキ (サツキ, ツツジ科)
栽えてあるだけ。
- (93) サルイチゴ (クロイチゴ, バラ科)
実は黒熟する。
- (94) サルトリバラ (サルトリイバラ, ユリ科)
- (95) サワグルミ (サワグルミ, クルミ科)
カワグルミともいう。皮箕を作る。
- (96) サワシバ (チドリノキ, カエデ科)
生木でも焚物になる。
- (97) サワツクワ (フサザクラ, フサザクラ科)
遠山川ではサークワという。『下伊那の植物 中巻』にフサザクラの方言名とあるサルグルミは多分ツノハンバミだろう。
- (98) サワナス (ハシリドコロ, ナス科)
- (99) サワフタギ (タマアジサイ, ユキノシタ科)
ヘビタバコともいう。
- (100) サンシヨウ (サンシヨウ, ミカン科)
疣を取ろうとする時、「イボイボ渡れ」と唱えてサ
ンシヨウの木に箸でわたす。
- (101) シオジ (シオジ, モクセイ科)
- (102) シキビ (ツルシキミ, ミカン科)
鳥もこの実は食べない。マンリヨウともいう。
- (103) ジジババ (シュンラン, ラン科)
ハツコリともいう。御祝儀に飾る。
- (104) ジシヤ (ダンコウバイ, クスノキ科)
- (105) シダミ (ナラ類の実)
- (106) シナ (シナノキ, シナノキ科)
シナの皮はカザがするので、馬にシナ縄をぶら下げるとブユがつかない。
- (107) シノブシダ (シノブ, シダ類)
- (108) シモワラビ (フユノハナワラビ, シダ類)
- (109) シャゴメ (ナツグミ類, グミノキ科)
栽えられているもの。遠山川ではシャオメ。
- (110) ショウガエビ (マツバサ, モクレン科)
マツバエビともいう。実を食べる。茎は神経痛のくすりに、湯に入れる。遠山川ではワタフジという。
- (111) シラカンバ (シラカンバ, カバノキ科)
- (112) シラクチ (サルナン, マタタビ科)
実をコッカという。
- (113) シロシデ (イヌシデ, カバノキ科)
- (114) シロバナ (バナ, バナ科)
- (115) スズダケ (スズダケ, タケ科)
- (116) スナン (オオウラジロノキ, ナン科)
ズミともいう。ヤマズミというのは何か?
- (117) セツケングサ (クサコアカソ, イラクサ科)
- (118) ゼンザ (オンダ, シダ類)
ゼンザ平という地名がある。鹿塩ではゼンザともオニゼンマイともいう。遠山川ではゼンダと聞いた。『下伊那の植物 中巻』にゼンマイの方言としてあるデンラが関係あろう。
- (119) センブリ (センブリ, リンドウ科)
- (120) ゼンマイ (ゼンマイ, シダ類)
- (121) ソソヨケ (タケニグサ, ケシ科)
遠山川ではソソヤケと聞いた。
- (122) ソバイチゴ (エビガライチゴ, バラ科)
ソバを播く頃に実が食べられる。遠山川でも同一方言名。
- (123) ソヨモ (ソヨゴ, モチノキ科)
ソヨギともいう。遠山川ではソヨズと聞いた。
- (124) タケカンバ (ダケカンバ, カバノキ科)
遠山川ではタケシという。
- (125) タラ (タラノキ, ウコギ科)
新芽を食べる。実を熊が食う。
- (126) チュークサ (メヒシバ, イネ科)
夏至をチューという。チューから10日後がハゲン(半

夏)である。松本付近ではチヨナグサと呼ばれる。

(127) ツガ(ツガ, マツ科)

小正月のまゆ玉はツガやソヨモに刺す。ホンツガともいう。

(128) ツキ(ケヤキ, ニレ科)

材はケヤキと大した差がないという。鹿塩ではツキは膚が白いと聞いた。

(129) ツキミソウ(オオマツヨイグサ, アカバナ科)

(130) ツクバネ(ツクバネ, ビャクダン科)

(131) ツタウルシ(ツタウルシ, ウルシ科)

ツタウルシには2種あるという。

(132) ツチイチゴ(ナワシロイチゴ・バライチゴ, バラ科)

遠山川ではツチイチゴ(ナワシロイチゴ)とホウロクイチゴ(バライチゴ)を区別している。

(133) ツツジ(ヤマツツジ, ツツジ科)

子供が花を食べる。

(134) テテツ(ハナイカダ, ミズキ科)

ママコともいう。若葉を食べる。

(135) ドクブキ(?)

心がなく、また繊維がないという。

(136) トチ(トチノキ, トチノキ科)

(137) トチニンジン(トチバニンジン, ウコギ科)

根を酒に漬けて薬にする。

(138) トネリコ(ヤマトアオダモ, モクセイ科)

(139) トーヒ(イラモミ, マツ科)

(140) トーフノキ(コシアブラ, ウコギ科)

(141) トラノオ(トウヒ, マツ科)

トーヒより葉が軟らかい。

(142) ドーラン(チチブドウダン, ツツジ科)

(143) ドングリ(カシワ・クヌギの実)

シダミより大きい。

(144) ナギタデ(フジウツギ, フジウツギ科)

実を焼いて薬用とする。

(145) ナナカマ(マンサク, マンサク科)

(146) ナワシログミ(ウグイスカグラ類, スイカズラ科)

ナエシログミともいう。水っぽい実だ。

(147) ニガキ(ニガキ, ニガキ科)

柄物によい。

(148) ニシキギ(ニシキギ, ニシキギ科)

(149) ニデ(オヒョウニレ, ニレ科)

皮が冬でも剥けて役立つ。遠山川ではニレと呼び、ケヤキの次にねばい材という。

(150) ニワトコ(ニワトコ, スイカズラ科)

カナリヤの止り木にする。遠山川ではニワツゴーと

聞いた。

(151) ヌルデ(ヌルデ, ウルシ科)

小正月の御物作りにはヌルデで粟穂を、餅で稲穂を作る。

(152) ネズミサシ(ネズミサシ, ヒノキ科)

背負板(しゅうた)に賞用される。

(153) ネナシ(ネナシカズラ, ヒルガオ科)

ネナシの切口を疣につけると疣がとれる。

(154) ネム(ネムノキ, マメ科)

下の方にあり、幽霊のような花が咲く。

(155) ノギク(ノコンギク類, キク科)

(156) ノリクサ(ギンバイソウ, ユキノシタ科)

紙糊にするため出荷した。

(157) ノリノキ(ノリウツギ, ユキノシタ科)

高い方に生えている。

(158) バカグサ(ヒメムカシヨモギ, キク科)

(159) ハギコ(ハギ類, マメ科)

(160) ハグサ(エノコログサ, イネ科)

(161) ハシカノキ(クマノミズキ, ミズキ科)

柴にする時、葉の粉が体に付いてかゆい。

(162) ハッコリ(シュンラン, ラン科)

(163) ハトガシラ(ハクウンボク, エゴノキ科)

(164) パラ(モリイパラ等, バラ科)

(165) ハンノキ(ヤマハンノキ, カバノキ科)

(166) ヒエダング(アズキナシ, ナシ科)

ウラジロズミより葉が小さく、大木となる。カマツカとアオハダもヒエダングの類であるという。遠山川ではウラジロノキがヒエダングと称される。

(167) ヒシヤコ(アサダ, カバノキ科)

遠山川ではキシヤク。

(168) ビックリグミ(ダイオウグミ, グミノキ科)

栽えられている。

(169) ヒトツバ(ウスバサイシン, ウマノスズクサ科)

鹿塩の方言名。

(170) ヒノキ(ヒノキ, ヒノキ科)

谷側がアテで反るので、これで天秤棒を作る。ヒノキ板をムラサキシキブ(方言不明)の棒でもみ、火を起した。ムラサキシキブでかるこ棒、釘も作った。

(171) ヒメグルミ(ヒメグルミ, クルミ科)

里山にあり、また喜んで植えられる。核にはオニグルミのような溝がない。

(172) ヒメコ(ヒメコマツ, マツ科)

(173) ビンカ(イヌツゲ, モチノキ科)

大鹿村には自生はないが、盆栽にしている。

(174) フキ(フキ, キク科)

(175) フキアゲ(サルマメ, ユリ科)

竹の先に果序を挿し込み、吹き上げる。

- (176) フサザクラ (ウワミズザクラ・シウリザクラ, サクラ科)

柄物にする。鹿塩ではクソザクラである。

- (177) フシ (ヤシャブシ, カバノキ科)

実をおはぐろに使った。

- (178) フジキ (アオダモ類, モクセイ科)

遠山川ではマメ科のフジキをフジキと称し、材は黄色で丈夫だという。

- (179) ヘビシヤクシ (テンナンショウ類, サトイモ科)

- (180) ヘビタバコ (タマアジサイ, ユキノシタ科)

- (181) ホーキグサ (コウヤボウキ類, キク科)

山小屋で箒を作る。

- (182) ホクチゴボー (オヤマボクチ, キク科)

- (183) ボーダラ (ハリギリ, ウコギ科)

センの子供というのが、センは他所からはいって来た名称だろう。

- (184) ホデラ (ワラビ, シダ類)

葉の開いたワラビをいう。

- (185) ホーノキ (ホオノキ, モクレン科)

この葉はかしわ餅には使わないという。遠山川ではどの家にも植えられ、五月のかしわを包む。

- (186) ホヤ (ヤドリギ, ヤドリギ科)

ナラヤクリに着く。ホヤ鳥撃ちといって、ホヤに集まる鳥を鳥屋で待ち構えて撃つ。ホヤ鳥はホヤの種子を尻からひっばって、それが他の鳥の羽に着いたりする。

- (187) ホンツガ (ツガ, マツ科)

- (188) ホンモミ (モミ, マツ科)

- (189) マタタビ (マタタビ, マタタビ科)

- (190) マツバエビ (マツブサ, モクレン科)

- (191) マフジ (フジ, マメ科)

下の方にある。花を乾し、むきアサリと煮て食べる。遠山川では薪を束ねるタブネソにマフジ、グズバ、ゴトウアケビ、ワタフジを利用する。

- (192) ママコ (ハナイカダ, ミズキ科)

- (193) マメウエツツジ (ミツバツツジ類, ツツジ科)

遠山川ではイチバンツツジといい、ニバンツツジと呼ばれるのがヤマツツジである。

- (194) マメブシ (キブシ, キブシ科)

子供が髓を突き出して遊ぶ。

- (195) マンリョー (ツルシキミ, ミカン科)

- (196) ミズナ (ウワバミソウ, イラクサ科)

- (197) ミズナラ (ミズナラ, ブナ科)

- (198) ミズブサ (ミズギ, ミズキ科)

- (199) ミズメ (ミズメ, カバノキ科)

囲炉裏の縁木はミズメまたはクルミを使う。

- (200) ミネバリ (オノオレ, カバノキ科)

- (201) ムセッタ (マスタケ, 菌類)

- (202) ムラダチ (ヒキオコシ, シソ科)

堆肥に良い。

- (203) メギ (メギ, ヒロハノヘビノボラズ, メギ科)

箸を作って使えば体に良い。

- (204) モチ (ヤマグルマ, ヤマグルマ科)

昔は皮から鞘を作った。

- (205) ヤシャビシヤ (ヤシャビシヤク, ユキノシタ科)

キヤンヤとツルヤンヤがある。果実を後産(ござん)の薬とするため、お産がある時は果実を採り、乾しておく。種子は鳥の腹を通してはじめて発芽する。

- (206) ヤマアマチャ (ヤマアジサイ, ユキノシタ科)

- (207) ヤマウコギ (ヤマウコギ, ウコギ科)

- (208) ヤマウルシ (ヤマウルシ, ウルシ科)

- (209) ヤマグミ (ツクバグミ, グミノキ科)

- (210) ヤマゴボー (モリアザミ, キク科)

- (211) ヤマザクラ (ヤマザクラ類, サクラ科)

- (212) ヤマスグリ (スグリ, ユキノシタ科)

- (213) ヤマタバコ (ヤグルマソウ, ユキノシタ科)

- (214) ヤマツクワ (ヤマグワ, クワ科)

- (215) ヤマナシ (ヤマナシ類, ナン科)

ニジッセイキより美味しいものがある。

- (216) ヤマブキ (ヤマブキ, バラ科)

- (217) ヤマブドー (ヤマブドウ, ブドウ科)

- (218) ヤマヤナギ (パッコヤナギ, ヤナギ科)

- (219) ユーゾメ (ガマズミ, スイカズラ科)

- (220) ヨメナ (ヨメナ, キク科)

- (221) ヨモギ (ヨモギ類, キク科)

- (222) リョーブ (リョウブ, リョウブ科)

- (223) ワラビ (ワラビ, シダ類)

(東京大学教授)